FD NEWSLETTER

CONTENTS

- 「為すことによって学ぶ」
  学生部長　仏教学部教授
  長谷部　八朗
- 「対面授業と知的人間成長への支援」
  国際センター所長
  総合教育研究部教授
  上野　勝広
- 平成 25 年度ＦＤ研修会
  総合教育研究部教授
  落合　和昭
- 平成 26 年度
  新規採用教員オリエンテーション
- 平成 25 年度活動報告
- ＦＤ推進委員会の今後の活動予定

為すことによって学ぶ

学生部長
仏教学部教授　長谷部　八朗

かねてより、私の担当する科目で年１回程度、「大学の授業に望むこと」と題したレポートを課している。今年も５月に行った。むろん記名だが、「本音を聞かせて欲しい」との要請に応え、受講者は、なかなか熱く、かつ示唆的な意見を返してくれる。内容は種々に亘るが、総じて多いのは、「双方通行型」とか「双方参加型」授業への要望である。もっとも、受講者が増えればそれだけ教員との距離は広がるわけで、抜本的な対策がなされないかぎり、こうした授業はせいぜい少人数の演習などで行うしかない、といった話になる。かくいう私も、この状況は実感するところである。だが受講者の意見には、抜本策よりもむしろ、教員側のちょっとした工夫を求める声が目立つ。たとえば、「質問の双方向性」への期待が挙げられよう。教員は、質問を受けるだけでなく、受講者に、それも授業の中で投げかけてほしいというのである。この場合、当然、受講者にどう答えさせるかが問われよう。しかし、前後の文脈に目を遣ると、そうした意見の背景には、どうやら「話す」授業ではなく「話しかける」授業への期待がうかがえる。ほかに、授業内容との直接間接の関連を問わず、教員の体験談を話して欲しいとの声も少なくない。結局学生は、規模の大小にかかわらず、授業の場における教員との心理的隔たりの縮小を望んでいるのである。その結果、現に会話は交わされなくても、そこから、教員と学生の一種コミュニケーショナルなかかわりが生まれることへの期待といえようか。

さて、標題に「為すことによって学ぶ」と掲げた。戦後 20 年代に打ち出された社会科教育等の指針である。当時、地域社会を教室代わりに、住民の生活から生徒が問題の所在や解決法を主体的に学ぶ、いわゆる問題解決重視の経験カリキュラムが謳われている。だが、当の理念は充分に根を下ろすことが出来なかった。

翻って上述の意見に目を向ければ、結局それらに通底するものは、「為すことによって学ぶ」ことへの要望ではなかろうか。学びの場や形、あるいは学ぶ者の長幼を問わず、こうした理念が教育のコアに据えられねばなるまい。

冒頭のレポートは、このような思いもあって試みてきた。ただ、あくまで意見ゆえ、成績評価とは切り離している。そうとすれば、それを「無用の用」と為し得るか。受講者への課題は、私への課題として投げ返されている。

連載企画：よりよい教育のために

「対面授業と知的人間的成長への支援」

国際センター所長　総合教育研究部教授
上　野　勝　広

私たちは IT 技術の急速な発展の恩恵に浴し、インターネットを通じて「いつでもどこでも、だれでも無料で大学の講義を聴ける」時代を迎えた（＜日本版ムーク：大学の知をもっと身近に＞朝日新聞 2014 年 6 月 2 日 8 面社説)。「貧富による教育格差の克服」により、大学の知へのアクセスが難しかった人々にとって、なるほどこれは大きな朗報に違いない。

決して安くないコストを学生に課している通学型の対面授業は、当然それだけの価値を担保し続ける必要がある。従来から指摘されるように、時間と空間を共にする教員と学生相互のコミュニケーション密度の濃さ、余談や脱線までも含めたライブ感の知的刺激は、通信メディアを介した授業よりもはるかに豊かで満足感が勝る。教員はより高い付加価値を提供すべく、受講学生の知的好奇心を育むよう内容の充実に傾注し、長いと思われる授業時間中の集中力を持続させる工夫もますます重要になろう。もちろん今後は「ネットと教室を組み合わせて授業の質を高める」動きから、両者の強みを生かし教育効果のさらなる向上が期待される。

元気で若いエネルギーにあふれた大学生は、高校生以下にも社会人にもない特権を有している。もうお仕着せで受け身の学習は強いられない。また社会人のようなプレッシャーや責任もまだ負わされない。在学中はのびのびと学びの自由を享受できる。与えられる知識をただそのまま吸収するのではない。学びたいことを選択し、知識を得て、それを土台に自ら問題を発見、その解決を追求し行動してゆく姿勢へと意識改革が求められる。こうした学びをいかに活用して自己の知的人間的成長を実現できるかが、卒業後のキャリアプランに大きな影響を与え可能性を広げよう。

自由にされてみると、今度は一体何をどうしたらいいのか途方にくれてしまう状況に直面するかもしれない。かくして大学の履修や生活の悩みは、多様で難しい。学生からの相談に積極的に応じて、また時には声かけもして必要な助言のできる体制づくりが大切だ。もちろん選択の最終的な決定権は、学生自身にあるのだと自覚してもらおう。

大学の主人公は学生たちで、教職員は彼らの良きサポート役である。

進学という人生の岐路にあたり縁あって駒澤大学を選んでくれた前途有為な若人たちが、ここに集っている。卒業時には力強い一歩を社会に向かって踏み出せるよう、常に良心的な支援に励むのが、われわれ教職員の務めである。

平成 25 年度ＦＤ研修会

平成25年度FD研修会は、平成26年3月13日（木、14:40～16:10）に、1－201教場で行われた。今回の「テーマ」は「Webによる授業アンケート」、講師は、株式会社ディスコの久保智宏氏であった。

この「テーマ」が選ばれた理由は、今年度、平成26年前期科目より、それまでの紙媒体による手書きの授業アンケートからC-LearningによるWeb（ケータイ・スマートフォン・PC）による授業アンケートに切り替わるためである。そのため、この研修会は、教員にWebによるアンケートに少しでも慣れていただくために用意されたものである。研修会の内容は、

① 「学生による授業アンケート」の実施方法
② 集計結果の確認
③ 教員による授業アンケートの設定方法

であった。

①の「学生による授業アンケート」の実施方法では、まず、講師による模擬「学生による授業アンケート」が具体的な説明とともに実施された。こののち、仮の名前、学籍番号、ログインID、パスワードが与えられ、教員は学生の立場に立って、自らログイン画面にアクセスして、ログインIDとパスワードを入力し、C-Learningにログインして、「学生による授業アンケート」を体験した。このとき、講師より、ほとんどの学生は、ケータイ・スマートフォンの「パケット定額プラン」へ入っていると思われるが、そうでない学生にはそのプランへの契約の勧めがあった。

②集計結果の確認では、教員は模擬「学生による授業アンケート」の集計の結果を、即時に、スクリーン上で確認することができた。これは教員がアンケート結果を授業が終えた後、すぐに、個人のPCで確認できることを意味しており、この点が、Webによる「学生による授業アンケート」の大きな利点の一つである。

③教員による授業アンケートの設定方法では、授業内アンケートの作成方法を学んだ。これは、教員がすでに用意され

ているアンケート項目以外に、さらに学生に質問したい項目がある場合は、前もってその質問を作成して知らせる方法である。これによって、教員はアンケートの内容をより多様性のあるものにして、学生に関するより多くの情報を得ることができる。

平成26年度のWebによる「学生による授業アンケート」の質問項目の内容は、昨年度の紙媒体の「学生による授業アンケート」のそれとは、多少の字句の変更以外は、そのままの形で行われる。これはWebによる「学生による授業アンケート」への移行に伴い、多少の混乱も予想されるため、その混乱を最小限度に抑えるためである。

（落合　和昭）

（研修会の様子）

平成 26 年度新規採用教員オリエンテーション

本年度も 4 月 1 日に今年度より新たにご出講いただく先生方を対象としたオリエンテーションを開催し、専任教員 12 名、非常勤教員 68 名の計 80 名の先生方にご出席いただきました。

オリエンテーション第一部では廣瀬良弘学長より本学の建学の理念について、猿山義広教務部長より本学の教育方針等について、ＦＤ推進委員会小委員会委員長の田中靖委員長（文学部教授）より本学のＦＤ活動について説明をいただき、事務局からは、総合情報センター（「KOMAnet（コマネット）」、「ユーザーＩＤ」、「YeStudy（e-learning）等の利用について」）、図書館（「図書館の利用案内について」）、教務部（「授業運営に関係する説明」）が説明を行い、第一部終了後、希望された先生方を講師控室およびＡＶ教場にご案内しました。

第二部では、専任教員を対象に教務部から教員教育研究費等に関する説明を行いました。

オリエンテーションについて、ご意見、ご提案等ございましたら事務局までお申し出ください。

1. 開催日時

平成 26 年 4 月 1 日（火）14：40～16：00

2. 出席者数

80 名（案内状発送　150 名）

3. オリエンテーション次第

・学長挨拶
・教務部長挨拶
・ＦＤ推進委員会小委員会委員長挨拶
・大学案内（教務部・総合情報センター・図書館）
・質疑応答

質疑応答後、希望者を講師控室、ＡＶ教場に案内

（オリエンテーションの様子）

平成 25 年度ＦＤ推進委員会及び小委員会の活動報告

平成 25 年

4 月

・「新規採用教員オリエンテーション」を開催

5 月

・第 1 回ＦＤ推進委員会及び小委員会を開催

6 月

・第 2 回ＦＤ推進委員会小委員会を開催
・2013 年度「学生による授業アンケート」（前期）の実施
・FD NEWSLETTER 第 35 号を発行

7 月

・第 3 回ＦＤ推進委員会小委員会を開催

9 月

・FD NEWSLETTER 第 36 号を発行

10 月

・第 4 回ＦＤ推進委員会小委員会を開催

11 月

・2013 年度「学生による授業アンケート」（後期）の実施

・平成 25 年度公開授業の実施（11 月 26 日～12 月 7 日）

・第 2 回ＦＤ推進委員会を開催

12 月

・FD NEWSLETTER 第 37 号を発行

・第 5 回ＦＤ推進委員会小委員会を開催

平成 26 年

2 月

・第 6 回ＦＤ推進委員会小委員会を開催

3 月

・第 3 回ＦＤ推進委員会を開催

・平成 25 年度ＦＤ研修会を実施

・FD NEWSLETTER 第 38 号を発行

・平成 25 年度『ＦＤ活動報告書』を発行

ＦＤ推進委員会の今後の活動予定

○　平成 26 年度第 3 回ＦＤ推進委員会小委員会

平成 26 年 7 月 23 日（水）　14：00～

※FD活動についてご意見がありましたら、各学部等の小委員会委員までお申し出ください。

～2014 年度「学生による授業アンケート」（後期）実施のお知らせ～

実施期間：平成 26 年 11 月 10 日（月）～29 日（土）

対象科目：全科目対象（集中講義科目、演習科目、受講生が 20 名未満の科目は除く）

※本年度よりＷＥＢによるアンケートを実施しています（ＰＣ、スマートフォン、携帯電話、タブレット等を使用して回答されます）。

編集後記

『FD　NEWSLETTER 第 39 号』をお届けします。

巻頭言を学生部長の長谷部八朗先生、連載企画を国際センター所長の上野勝広先生にお願い致しました。ありがとうございました。

本年度から、学生による授業アンケートは紙媒体から Web に変わり、益々電子化が進んでおります。一方で、ネット社会に潜む、学生たちのコミュニケーション能力の低下を指摘せざるを得ません。教職員や友人、仲間（先輩、後輩）と語り、自己の確立と自立を目指してほしいものです。

大学生活においては、各自の自由な選択に任されているからこそ、自己責任を伴うこともわかってもらいたいのです。

2009（平成 21）年 10 月に発行された『駒澤大学ＦＤハンドブック―よりよい教育のために―』を本年度改訂いたします。我々、教職員は謙虚な姿勢と向上心を持って努力することが大切です。学生自身も学習の大切さと向上心を持って日々の努力が必要であると考えます。

最後に、年度初めのお忙しい中、原稿を寄せていただいた長谷部先生と上野先生に厚く御礼申し上げます。

（落合和昭・秋田浩一）

【タイトル横の写真は、８号館横のアジサイ】

ＦＤ NEWSLETTER Jun. 2014 第 39 号

発行日：2014 年 6 月 30 日

発行者：駒澤大学ＦＤ推進委員会

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢 1-23-1

TEL 03-3418-9444　Fax 03-3418-9114

（事務局：教務部）